

令和2年度学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校) S25

目指す学校像	地域と連携して自立を支援し、「進んで学び、実践できる生徒」を育成する学校
--------	--------------------------------------

重点目標	1 学習支援を充実させ、生徒に「学ぶ楽しさ」を体験させることで、「主体的・対話的で深い学び」を促す。 2 基本的な生活習慣の確立から自律心と社会性を身に付けさせ、3年間を見通した進路指導を実現する。 3 学校の情報発信と地域との連携を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 ○少しずつだが生徒の授業などに対する要求が見出されてきたので、それらをさらに引き出し、予習復習を促す方策を検討している。 ○プロジェクターが教室に整備されたので、ICT機器の活用に取り組み始めた。 【課題】 ○学校外での学習時間をどのように確保し、主体的な取り組みへと変えていくかが課題である。「学ぶ楽しさ」をもっと体験させるため、協調学習等の授業法の研究に積極的に取り組む。 ○研究授業などを通して、ICT機器の活用と研修を推進しながら、指導力向上のための工夫・改善を行う。	○学校以外での学習時間を週7時間以上とする。	①各教科において、計画的に週末課題を課す。 ②感染症対策を講じた学習指導を実施する。 ③進路希望に応じた青陵ゼミナールなどの講習や勉強会について、開講案内や申込方法を工夫し、多くの生徒を受講させる。	①日常の授業以外の学習時間の取組状況 ②感染症拡大防止のための臨時休業中の課題提示と動画等配信状況および感染拡大防止方策を施した授業再開ができたか。 ③進路希望に応じた講座の開講状況と生徒参加状況		
		○ICT機器の運用や教授法の研修の機会をつくり、各教員の指導力向上を目指す。	①相互授業観察の活用、授業力向上に係る研修の実施およびICT機器の活用による指導方法を研究する。 ②教科会を定期開催し、情報共有と授業研究の機会を確保する。 ③県事業の研修会や外部機関による授業力向上セミナー等への教員参加を奨励する。	①年次研を中心とした相互授業観察の実施状況および未来学び推進員の研究授業の実施状況 ①教室プロジェクターの活用状況 ②教科会の実施状況 ③授業力向上に係る県教委や民間団体主催の研修会等の参加状況		
2	【現状】 ○進路指導部による3年間を見通した進路行事計画の実践、生徒指導部による基本的な生活習慣確立のための計画実践、さらには生徒会を中心とした生徒参加による学校行事の実施ができるようになった。 【課題】 ○社会の変化に適応しながら、組織的に進路行事を実践し、生徒のより一層の向上心を高める。手帳等の指導により、生徒自身の学習計画等の自己管理を強化させたい。 ○今後も基本的な生活習慣が確立された学校生活を継続させる。自転車通学が多いので、交通安全指導をさらに強化する。 ○学校行事において生徒の主体的な取組を増やす。部活動加入率の向上と活動実績の向上を目指す。	○新入試制度に対応し、生徒の多様な進路希望を実現する。	①民間ツールとして「学びの基礎診断」を有効活用する。多様な進路選択に対応した講習開講や面接指導等を実施する。 ②手帳活用によるスケジュールの自己管理と記録の機会を設定する。	①一般入試受験者数および、より高い意識を持った進路希望状況 ①4年制大学進学者90名以上 ②手帳甲子園の継続実施や「総探の時間」等でのキャリア教育に係る啓発的取組の実施		
		○基本的な生活習慣をさらに確立させ、主体的な生活と命の大切さを認識させる。	①学校として、統一された基準で整容指導を実施する。 ②立哨指導により交通マナーをさらに徹底させる。	①②学校評価アンケート「服装や頭髪および交通ルールを守っている。」90%以上		
3	【現状】 ○部活動のPRも含めて、地元3校との小高交流事業やJRC部の特別支援学校との交流を継続的に実施している。 ○PTA・後援会と連携し、学校行事を運営することができている。 【課題】 ○小高交流事業等、地域への貢献活動を積極的に推進する。 ○今後もPTA・後援会と連携して、教育活動における環境整備を推進する。	○地域とのさらなる協働を進めるとともに、魅力ある情報発信を行う。	①小高交流やボランティア活動などを積極的に実施する。 ②学校説明会や学校見学会の活動に加え、塾への情報提供を行う。	①学校評価アンケート「学校行事に積極的に参加している」90%以上 ②部活動の加入率及び大会・コンクール等での実績や成果を昨年度以上		
		○PTA・後援会との連携を強化する。	①一斉メールやHPなどを通して、定期的に学校の情報を提供する。 ②保護者アンケートでの意見や要望を取り入れた方策を行う。	①学校評価保護者アンケート「本校に通わせてよかった。」(入学満足度)90%以上維持 ②PTA・後援会役員の学校行事での参加者状況		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		